

フリガナ	ノダ テツオ		学部 学科など	法文学部社会 システム学科
氏 名	野田 哲夫		職 名	教授
			講 座など	経済社会講座
専門分野	・ 情報経済論 ・ 情報産業論	その特徴	IT を中心とした情報テクノロジー、情報投資と経済成長、産業構造との関連、また社会的影響の研究。	
研究テーマ	・『B to B,B to C の進展と市場システムの研究』 ・『SOHO の実態調査と地域経済における役割』 ・『過疎・中山間地域における地域情報化と地域活性化』	その特徴	・ B to B,B to C の進展による電子市場および情報化投資の拡大と経済成長との関連。そして市場システムの変容。 ・ SOHO による雇用創出と地域経済および地域活性化との関連。コミュニティビジネス創出との関連。 ・ 過疎・中山間地域における地域情報化、行政の情報化の進展と過疎・中山間地域における地域づくり、地域活性化との関連。	
可能な共同研究・地域連携	・ テーマ・項目：情報産業、産業の情報化、また地域情報化の実態調査。 政策提言 ・ 要望事項：上記に関連すれば、特に要望はありません。			
可能な科学技術相談	・ 項目：情報産業、産業の情報化、地域情報化			
キーワード	情報産業、産業の情報化、地域情報化、IT、SOHO、B to B、B to C			

* 研究のポイント

B to B,B to C の進展と市場システム

生産システムの変化は具体的にはまず、個別企業においては生産過程への IT 技術の導入による企業業務の情報化、オンライン化や、それと結びついた企業間 (B to B) や企業と消費者間 (B to C) の電子商取引となって現れる。そして後者 (B to C) の進展がまた前者の IT 化、情報化を進め、労働過程が市場の変化にオンラインで即応することによる労務管理・生産管理がなされるのである。そこで、B to B,B to C の進展と市場システムと、市場に即応した生産過程の実態と、現代市場経済における理論的把握を行う。

SOHO の実態調査と地域経済における役割

生産過程の情報化は生産のオンライン化、ネットワーク化と併行した生産単位の小規模化をもたらす。特に IT 技術・IT 投資は他の生産技術に比べて sunk cost を低下させることによってこの生産単位の小規模化につながった。そこで登場してきた小規模生産形態のひとつが SOHO (Small Office Home Office) であり、これは市場構造の変化に柔軟に対応する生産形態、雇用形態として注目されている。そこで、日本における SOHO の具体的な存在形態を分析する中で、IT 革命 = 情報通信技術の革新によって SOHO という生産形態・雇用形態が発生してくる必然性と、SOHO が地域経済の中でその占める位置と展望 (可能性) を示していくことを課題とする。

過疎・中山間地域における地域情報化と地域活性化

一方で、インターネットの高速化に代表される情報・通信技術の発展は、遠隔地とのデジタルデータのやり取りを容易に進めることを可能にし、地方にいても就労やビジネスのチャンスを与え、U・I ターン、定住化へとつなげていくチャンスとして期待されている。それゆえに、島根県の特に中山間地域での情報化を考える際には、この点を認識した上で情報インフラの整備をどう進めていったらいいのか、そしてそのインフラを現状の維持から進んでさらに産業活性化、定住化対策にどのように結び付けたらいいのかという視点が必要になる。そこで、市町村のほとんどが中山間地域であるか、その地域を抱えている島根県において、情報化を進める際の課題と展望を「インフラ整備」と「インフラの活用」(特に SOHO を利用した産業面・雇用面を中心に) という点から、島根県で実施されている具体的な情報化の事例を検討しながら考えてみたい。

連絡先 Tel 0852-32-6164 Fax 0852-32-6164 E-Mail nodat@soc.shimane-u.ac.jp